

陳 情 人

学校における小動物・鳥の飼育の廃止に関する陳情

1 陳情の要旨

小動物の飼育は、これまで「命を大切にすることを育む教育」として行われてきました。しかし、現実には、動物の飼育が触れ合い、命を慈しむ場ではなく、餌をあげるだけの事務的、義務的なものになっている学校も少なくはありません。一部の学校には当てはまらない（飼育管理が十分である学校）例もあるものの、全国的に学校飼育の管理体制が不十分である事例が多数報告されており、佐野市においても改善の必要性を感じています。

現に、私自身、近くの小学校で十分な飼育をされていないうさぎや鶏が心配で何度も学校に足を運び、様子を見に行っていたことがあります。しかし、残念ながら、十分な世話がされず命を落としてしまった姿も実際に見てきました。その光景は忘れることはできず、深い悲しみと同時に「このままでは同じことが繰り返されてしまうのではないか」という不安を強く抱きました。なお、私が様子を見に通っていた学校では、当時訴えたことで現在は飼育をやめたため、悲しい出来事は繰り返されていない様子です。その経験からも改善は十分に可能であると確信しています。

子供たちにとって大切なのは、命を「犠牲にして学ぶこと」ではなく、命を「尊重し、大切にすることそのもの」を学ぶことではないでしょうか。そのための方法は、必ずしも校内で動物を飼うことだけに限らず、他にも多くの選択肢があると考えます。

現場での課題は次のとおりです。

- ・学期末や長期休暇に十分な世話が難しく、命が絶たれてしまうことがある。
- ・担当教員や児童・生徒の負担が多く、責任の所在が曖昧になる。
- ・環境省の「家庭動物等の飼育及び保管に関する基準」に照らしても、必ずしも適切な管理環境が整っているとは言えない。

こうした状況では、教育の目的に反し、子供たちに「命の軽視」といった誤った価値観を与えてしまうおそれがあります。

つきましては、以下の点をお願いします。

- (1) 市内の学校における小動物・鳥の飼育を段階的に廃止、もしくは指導を徹底してください。
- (2) 代替えとして、動物愛護センターの訪問や映像教材、地域団体との交流など、命の尊さを学べる新しい教育機会をご検討ください。

2 陳情の理由

どうかこれ以上悲しい命が失われることのないよう学校教育の在り方を見直し、子供たちが安心して「命の温かさと大切さ」を学べる環境づくりをお願いします。

私自身、動物たちの姿を見守る中で何度も心を痛めてきました。

最初に声をあげたときには、残念ながらその思いが理解されず、ただの苦情のように受け取られ、煙たがれたこともあります。しかし、教師や大人が命の問題に向き合わず、見て見ぬふりをすることは、子供たちに「弱い存在は軽んじてよい」という誤った価値観を伝えてしまうおそれがあります。

それはやがて、子供同士のいじめや無関心へとつながりかねません。だからこそ、私は何度も訴えかけました。未来ある子供たちには、無責任な飼育で生じる悲しみではなく、命の重みやぬくもりを前向きに学び、優しさや思いやりを自然に育んで欲しいと心から願っています。この思いを込めて、ここに陳情します。